



I N V I T A T I O N

山梨大学教育人間科学部
第 21 号
June. 27, 2007

★ 2007年度前期授業公開は7月3日（火）、27日（金）です。詳細は最後をご覧ください。

平成19年度 山梨大学教育人間科学部 初任者懇談会報告（2007年6月6日）

今年度の初任者懇談会を6月6日（水）に特別会議室で行いました。初任者の方々は、昨年9月に着任された西久保浩二先生（共生社会講座）、4月に着任された澤田知香子先生（国際文化講座）、芹澤如比古先生（理科教育講座）、皆川卓先生（社会科教育講座）の4名の先生方です。先生方からのご感想、ご意見を次年度以降の初任者懇談会に生かしていきたいと思っております。

● 初任者の先生方からのご意見、ご感想

（沢田知香子先生）

山梨にまいりまして二ヶ月が過ぎ、このキャンパスが日常の風景になってまいりました。今回の新任者研修会では、学長と学部長のお話により、山梨大学の一員として大学をその目指す方向へ一丸となって盛り立てていくための熱意を刺激されました。人事課長、研究協力課長、FD委員会の先生方からは様々な実際的な仕組みについて丁寧なご説明をいただき、また、ほかの新任の先生方のご意見をお聞きすることもでき、新しい地でいまだ手探りをしております私には非常に有意義な研修会でした。

（芹澤如比古先生）

理科系の私としては、例えば顕微鏡など最低限の実験機材をある程度揃えないことには研究が進められません。それらは決して研究費だけですぐに揃えられるものではありません。そんな私にとって、最も興味深かったのは研究協力課長のお話でした。科研費の採択方法や、大学別の採択数、配分予算などや、山梨大学の取り組みをうかがい、今後、外部資金を取得していこうとする意欲をさらに強めました。

（皆川卓先生）

地方国立大学一般を取り巻く現状と、その中で山梨大学のポジション、並びに科研費申請の重要性をご教示いただき、大変有意義でした。従来教育活動にやや偏りがちであった地方大学にも、研究機関としての役割に対する期待が一層強まっている状況を切実に感じました。さらに新任の

先生方が当面の課題として直面する問題に関しても、一人ではなかなか知り得ない情報を交換する機会に恵まれ、この点でも学ぶところ大でした。

(西久保浩二先生)

初任者懇談会を通して、大学全体についての包括的な理解が促進されたこと、特に、大学経営が現在置かれている厳しい環境についての認識を得ることができました。しかし、各分野の説明内容が短時間しかないこともあって、浅く個々の分野での課題、問題の優先度が理解できなかったこと、また、初任者のなかでも大学勤務経験の有無、長短などバラつきがあるため、基本的な用語など説明に対して十分理解できない点などが今後の課題と思われました。

平成19年度教育人間科学部初任者懇談会プログラム

- | | |
|--------------------------|---------------|
| 1. 学長あいさつ | (貫井英明学長) |
| 2. 学部長あいさつ | (川村隆明学部長) |
| 3. 法人職員のサービスと倫理、給与の仕組みなど | (山田重美人事課長) |
| 4. 外部資金・科学研究費など | (山名貴之研究協力課長) |
| 5. FDの現状と課題、授業評価など | (鳥海順子学部FD委員長) |
| 6. 意見交換、懇談 | |

● 第12回FDフォーラム「学生が伸びる大学教育」(大学コンソーシアム京都主催)

報告が大変遅くなりましたが、3月3日、4日の2日間、京都産業大学及びキャンパスプラザにおいて第12回FDフォーラムが開催され、参加する機会を得ました。第1日目は作家で京都産業大学客員教授の樋口裕一氏による「大学生の発信力が伸びる」という基調講演で始まり、続いて立命館大学教育開発・支援センター教授の木野茂氏をコーディネーターに、シンポジウム「学生が伸びる大学教育」がありました。第2日目は、ミニシンポジウムや分科会がありましたので、報告いたします。

1. 基調講演「大学生の発信力が伸びる」 京都産業大学客員教授の樋口裕一氏

樋口氏は小論文・作文通信指導塾を設立され、「頭のいい人、悪い人の話し方」や「ホンモノの文章力—自分を売り込む術」等の著書で有名ですが、従来の受信型の教育や文章を書けない若者たちの現状を打開すべく、発信力「書くこと」の重要性をご自身の体験に基づいて話されました。氏は自由に書くために型の習熟が必要であること、発信力を伸ばすことによって、受信力も伸びること、すなわち思考が論理的になり、文章を正確に深く読むことができることなどを述べられ、小論文指導の一端を紹介されました。例えば、400字程度の小論文の型は次の4部構成です。

第一部 問題提起：全体の10%前後。問題点を整理してイエス・ノーの問題提起をする。

第二部 意見提示：全体の40%前後。イエス・ノーのどちらの立場なのかをはっきりさせる部分。「確かに」のあとに反対意見について譲歩を示した後に、「しかし」と切り返して、自分の意見を書く。反対意見もきちんと踏まえ、論を深めることができる。

第三部 展開：全体の40~50%。小論文のクライマックス。第2部で示したイエス・ノーの立場の根拠を書く。また、イエスで答えたいときには、その対策を書くのでもよい。

第四部 結論：全体の10%以下。もう一度全体を整理して、イエスカノーかを確認。

樋口氏の「日本語表現」の授業では、これに先立って200字程度の小論文を書かせるそうです。これは、「結論」と「根拠」の2部構成から成り、「結論」を先にすることが難しいときには、順序を逆にします。昨年度2月の本学部FD講演会「<勉強>から<学習>へ：学びのスタイルを変

える授業とは（日本人学生のための日本語教育を参考に）」の中でも学生の文章表現力の重要性に気づかされましたが、今回の講演でも再認識することができました。

2. シンポジウム「大学教育への期待」

コーディネーター 木野 茂氏（立命館大学大学教育開発・支援センター長）
シンポジスト 中津井 泉氏（リクルート・カレッジマネージメント編集長）
中尾 ハジメ氏（京都精華大学理事長）
橋本 勝氏（岡山大学教育開発センター教授）

このシンポジウムでは、「学生」の視点に立って、「学生が伸びる」大学教育とはどのようなものか、何が必要なのかについて意見交換が行われました。シンポジストからは、学生の目の輝きを取り戻すために「山頂置き去り方式」「伝統工芸丁稚体験」「読み書きの実践」等の社会的責任や現実の困難性に立ち向かわせる取組や「学生発案授業」「全構成員型FDフォーラム」など学生参画型教育改善等の特色GPを中心にした教育実践の紹介がありました。大学教育を通して、学生自身が自分のどこがどう伸びたのかを評価し、自分自身をさらに伸ばすプログラムを立てる力量を育てること、そのために教職員及び学生が積極的に大学教育の改善に取り組むことが求められている段階に入ったと言えるのではないかと、その意味で、「学生が伸びる」大学教育ではなく「学生が伸ばす大学教育」へと変化しなければならないのではないかと等フロアーも交えて熱心な意見交換がなされました。なお、岡山大学では、討論テーマを全国の学生から公募し「深化・発展する教育改善学生交流」を今年9月8日（土）に開催するそうです。（問い合わせは stfd@cf.d.cc.okayama-u.ac.jp まで。）

3. ミニシンポジウム「授業アンケートは授業改善につながるのか—学生と教員の声—」

コーディネーター 藤岡 秀樹氏（京都教育大学教育学部教授）
松本 真治氏（佛教大学教授法開発室室長）
シンポジスト 濱名 篤氏（関西国際大学学長）＊
（＊濱名氏は本学の18年度全学FDで講師をしてくださいました。）
米谷 淳氏（神戸大学大学教育推進機構教授）
中村 博幸氏（京都文教大学人間学部教授）
協力者 佛教大学学生有志

このミニシンポジウムでは授業アンケートが授業改善に効果があるのかわからない、学生も要望を実現してもらえているのか実感がない等袋小路に入っている現状を踏まえ、授業アンケートの意義やあり方について議論がなされました。学生からは、「アンケートが同一のため、調査項目に不適切な場合がある」、「講義期間途中で実施し、改善してほしい」、「授業時間がアンケートに割かれるのは困る」、「授業の到達目標を示してほしい」等の率直な意見が出されました。これに対し、シンポジストからは、「授業アンケートはFDの一環として急激に普及したために、きちんと内容を吟味し、改善することが十分になされなかった。授業アンケートは①役立つか②興味深かったか③方法は適切だったかの3要素を入れていることが多いが、③については、授業開始後すぐに実施し、即時フィードバックした方がよいし、②については授業終了時にならないとわからない、①は卒業時や卒業後に判断できる内容であろうが、現状のアンケートでは混在している。」
「学年によって、授業の内容もスタイルも根本的に異なるのに、同一アンケートでよいのか」「授業アンケートは授業改善方法の一部として捉えるべきである。」「大学教育に問われているのは、ジェネリックスキルではないのか。」等の意見が出されました。本学においても授業アンケート実施について、授業期間途中で実施するなど見直しが図られていますが、授業改善のためにはアンケート以外のさらなる方法の検討が必要と思われました。（鳥海 順子）

2007年度 前期授業公開のお知らせ

2007年度の前期授業公開（2コマ）のお知らせです。後期にも授業公開（2コマ）行います。皆様の積極的な参加をお願いします。授業後に短時間ですが、意見交換の時間をもつ予定です。

第1回公開授業

7月3日（火曜日） 2時限（10:30～12:00）

「フランス語初級A」（科目番号：062201A）

教室： Y-14

履修学部・コース： 工学部・医学部看護コース

授業担当者： 森田 秀二（国際文化講座）

概要：私の担当する授業では習うより慣れろをモットーにできるだけ発音させる時間を確保するようにしています。クラス・ゲームを用いたパターンプラクティスにより基本的な文法の体得と語彙力の強化を目指す一方、これをオラル試験にも使いますので、ゲームがスムーズにできるようになることが個人レベルでも目標になります。また、個別指導のために伝語IDカードをワードで作らせ、メールによる往復により内容を徐々に充実させるようにしています。

第2回公開授業

7月27日（金曜日） 4時限（14:45～16:15）

「音楽科内容論A」（科目番号：160545A）

教室： L-527

履修学部・コース：教育人間科学部 発達教育コース・障害児教育コース・教科教育コース

授業担当者： 手塚 実（音楽教育講座）

概要：本授業受講者は21名。ほとんどの学生は音楽的知識や技術（技能）をもっていません。授業担当者の経験から、彼らに対し音楽的才能（音感、リズム感等）を備えていることを前提とした授業は、彼らを益々音楽嫌いな人間にしてしまう危険性があると考えています。そこで、本授業では、心地よい合奏体験を通し、結果的に音楽知識をも学習できるよう工夫しています。

2007年度 FD研修会（10月）のお知らせ

今年度の学部FD研修会では、急速な教師教育改革の現状をふまえ、本学部における今後の教員養成のあり方を考えるために「教員養成と教員養成学部のこれから一展望と課題」をテーマに研修会を持ちたいと思っています。現在のところ、教師教育について広く研究されておられる東京学芸大学の岩田康之氏をお招きし、10月31日（水）に開催する予定です。皆様の積極的な参加をお願いいたします。なお、FD研修会につきましてご希望、ご意見等ありましたら、FD委員までお寄せください。